

平成28年度函館市地域包括支援センター事業評価 評価結果

函館市地域包括支援センターあさひ

1. センターの概要(平成28年4月1日現在)

センター所在地	函館市旭町4番12号		担当圏域	西部	
圏域の人口	18,827人	圏域の高齢者人口	7,643人	圏域の高齢化率	40.6%
職員数	保健師 3人, 社会福祉士 3人, 主任介護支援専門員 3人, その他 2人(配置基準職員 5人)				

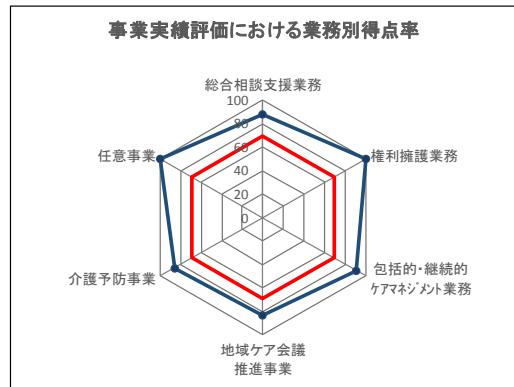
2. 事業内容評価(配置基準職員による自己評価に基づく評価)

センターの評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的には、経験年数の長い職員が多く、問題なく事業を実施できていた。 ・ 総合相談については、相談を受け止め、タイムリーに対応するなど、適切に支援が行えている。 ・ 権利擁護業務については、対応する職員が社会福祉士に偏っており、ミーティングでの意見交換も活発ではなく、チームアプローチに課題があった。今後は、担当者の決定方法やミーティングの実施方法の見直しを行いたい。

市の評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センターでの経験年数が長い職員が多く、各事業の取り組みに問題はないと評価する。 ・ 権利擁護業務については、対応する職員が社会福祉士に偏っており、チームアプローチに課題がある。職種を問わず、権利擁護の視点を持ち相談に対応することや緊急性等を適切に判断することが求められることから、社会福祉士以外の職員もケースを担当することにより、実際の支援を通してスキルの向上を図ることができるよう体制づくりを行っていただきたい。

3. 事業実績評価(実績に基づく量的評価)

評価	評価基準(得点率)
A	<ul style="list-style-type: none"> A 期待以上(87%以上) B ほぼ期待どおり(69%以上87%未満) C 改善を要する(50%以上69%未満) D 根本的な改善を要する(50%未満)



センターの評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合相談支援業務については、地域住民に対し積極的に出前講座を実施することで、「困ったら地域包括支援センターへ相談する」という周知が行えた。一方、民生児童委員協議会へのアプローチが行えず、民生児童委員からの相談件数も減少しているため、今後は積極的に働きかけたい。 ・ 包括的・継続的ケアマネジメント業務については、圏域内の居宅介護支援事業所を訪問することで、地域のケアマネジャーと顔の見える関係づくりが行え、日常の関わりにも良い影響が出ている。 ・ 地域ケア会議推進事業については、地域福祉の担い手の負担が大きいという地域課題があるため、ボランティアの活用等につながることを目指し、地域課題の検討を行う地域ケア会議を実施している。実際、会議終了後に、町会と引きこもり支援団体がつながるなどの効果もあった。

市の評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合相談支援業務について、センターの役割の周知は十分行えたが、福祉サービス等については広報紙への掲載のみだった。今後は、出前講座のメニューを周知するなど、福祉サービス等の周知機会の拡大に取り組んでいただきたい。 ・ 包括的・継続的ケアマネジメント業務について、独自に圏域内の居宅介護支援事業所への訪問を実施するとともに、ケアマネジャーが相談しやすい環境づくりについての取り組み内容や効果を他のセンターへも発信することで、他のセンターの取り組みに広がっており評価できる。 ・ 健康づくり教室開催状況について、継続教室の自主化が課題と捉えていたが、平成28年度はボランティアの活用等の工夫を行い、自主化できた教室が多くあったことを評価する。

4. 運営体制評価

- ・ 3職種における基準を上回る配置や継続勤務年数が長いことなど、センター事業を円滑に実施できる体制が確保されている。
- ・ 現場の要望も踏まえ職員が働きやすい職場環境を整えるなど、適切な業務管理が行われている。
- ・ 外部研修への参加の機会を確保するなど、教育・研修体制を整備している。
- ・ 同一法人のサービス事業者の利用割合は20%未満であり、公正で中立性の高い運営を行っているとして評価する。

5. 総評

センターにおいては、各分野全般にわたってバランス良く事業が実施できており、運営法人も職場環境を整えるなど、その実施体制の充実を図っている。

継続勤務年数が長い職員が多く、これまでの活動や構築したネットワークから把握した諸課題の解決に向け、効果的な取り組みを行っているとして評価する。

今後は、3職種それぞれの専門性を十分発揮するとともに、チームアプローチを念頭に置き、個々の職員のさらなるスキルアップを図っていただくことを期待する。